

昭和九年五月十一日 第三種郵便物認可
昭和十七年三月二十五日印刷納本 昭和十七年四月一日發行

(每月一回一日發行)

通卷第九十九號

大倉邦彥監修

躬行

皇紀二千六百二年
四月號

(館本所究研化文神精倉大)

明治天皇御製

ひさしくも

いくさのにはに

たつひとは

家なる親を

さぞ思ふらん

(濟閔檢省軍陸) 躍活の隊部牛鐵軍皇



誰もが我慾を持ちながら、我慾を制して國家大の慾に向ふことによつて、
我慾の小ささ、醜さが段々解るやうになる。小我の慾を捨てながら、國家
大の理想を求めることが、大東亞建設の山登りの足取りの姿である。

利益利權代表の選舉から、國是國策遂行の翼贊代表の選舉にしようとするのが、今度の選舉の目標である。

舊弊と革新の勝負は、この選舉が決定する。

悪い事は口に出さずに實行するが、いゝ事は口に出す程實行が出来ないから、世間には惡事が多くて、いゝ事が少いやうに見える。かくして、善を好みながらも惡の道伴れをしようとして、益、惡を増すのではなからうか。米英の世界制覇を覆したほどの日本人の勇氣を以てすれば、世の中の惡弊矯正の出来ないことはあるまい。

目次

御製と寫眞	感想
大東亞建設と産業指導者	二
子を傷ふ母	七
母のかな文字	七
春を迎へて(和歌)	九
總力戦と降伏の問題座談會	一〇
軍神の勉強	一四
總選舉	一五
思想戰	一六
慰問袋	一七
長壽	一八
卵と猫	一九
國民大詔奉戴日	二〇
行事	二〇
連座國體と隣組(完)	二二
大倉山便り	二四
編輯後記	二四



大東亞建設と産業指導者

産業界に於て指導的な地位にある人は、所屬の全員を率ゐて、よく國家目的に副はしめるやうに、企画、運営の指導に任じなければならぬ。さやうに意義ある重大なる職分であるだけに、仕事は中々困難であるに違ひない。このことは、一會社の社長、専務、工場長についても同様である。かゝる長たる者の心得べきことは、結局は當人の人格に俟つより仕方のないものであるけれども、最も基礎的な肚の持ち方には、凡そ次のやうな色々な場合が考へられるのである。

第一は、親としての立場にある自己を自覺して、部下並びに環境を如何に取扱ふかといふことである。この場合先づ、自己といふ小我を捨てることである。自分の地位資格にこだはることなく、虚心坦懐相手に接する時始めて周囲を中心とし、本體としたことになるから、どんな我儘も、どんな無作法も、分らず屋も抱擁する心構へが出来るのである。その次には、周囲のどんな人々に對しても、分らず屋に向つても、これを子供として吞んでかゝる肚が必要である。さういふ境地に立てば、相手と競り合ふやうな對立的氣分などは出よう筈もない。自分は儼然たる親としての存在であるから、周囲を愛し、

育て、導く立場にあるといふ自覺の上に立つのである。今一つの場合を考へてみると、自分を捨ててかかるとか、自分を親としての抱擁的な立場に置くとかいつたやうな心持も捨ててしまつて、何物をも頭に置かない虚心なる心持、謂はゞありの儘の姿となつて、周囲に接するといふ境地がある。かうなると、すべてが、はつきり浮び出されて来るから、透徹した判斷と見透しがつのである。さうしてこそ、こちらは眞の社長であり、工場長であり、同時に周囲の存在は、それぐの姿に於て、その儘に生かされて来る譯である。かうして雙方の存在は、その儘雙方の地位を示し、しかも人情の美點を寫し出すのである。

かういふ透徹した人格的鍊成は、常平素の修養に俟たなければならぬのである。修養にも色々あつて、道場に行つての修養や參禪の肚括へもあり、信仰による精神淨化もあらうが、それ等の何れの場合にも優れた生きた道場は、世間その儘の生きた現實社會である。世間を道場として生きた行學一致の修養こそ望ましいことである。然るに、從來一般にさやうなことは縁の遠いことのやうに考へて、修養的氣分の代りに、碁、將棋、酒、骨董などが、周囲との接衝の手助けとして、或は又接衝疲れの慰安として心得られてゐた程である。しかし、さやうな助けを杖とするよりも、自分自身を修養鍊成することとが根本的なことである。大きい船は大きいプロペラーや舵を持つてゐるやうに、高き地位を持ち、支配的地位にある人々は、それだけ大きな肚を必要とし、修養を必要とするのである。

すべて人の上に立つ者は、心の眼で全體を達觀することが肝要である。何時も多忙を續けてゐる者の缺點として、沈思默考する時がない。用事も輻輳するし、疲れても居るために、慰勞の意味で犒ひはす

るけれども、想を練るといつたやうな時を持たないから、自己の一方的に性格づけられた方向へのみ進む傾向を持つものである。言ひ換へれば、自己といふ穴を掘つて、その中に入りたがる結果、決つた型に嵌つて、それより手も足も出ないといふ結果になりがちである。さうして周囲からは、あの人は、ああいふ質だと鑄型づけられ、自分はこれでいゝと考へがちである。その結果は、上にも、下にも、同僚にも、仕事にも甚大なる影響を及ぼすものである。だから、一日に一度は端坐默想して、想を練る必要がある。さうすれば、直観の閃きも出るし、反省も出来るし、思ひがけない見出しものがあるものである。

近代の工場は多く都會近くに設けられてある。しかも、それは集團生活であるために、萬事につけて傳播力が速いものである。善からぬ事は尙更傳播し易い。殊に若い勞働者は考へが單純であるから、善にも惡にも引入れられることが容易である。その上、勞働社會の悪い傳統などがあつて、躰けも習慣も思想も健全でない場合が多い。そこで、善き讀物、健全娛樂を與へることもさることながら、指導者との接觸の機会を多くして、親切な誘導をするに勝れたよき方法はないことを附加へておきたい。

工場などでも、讀書、講演、競技、ハイキング、音楽、映畫等の設備が施されてあるが、それが單にたゞ健康、娛樂だけのものであつては、完全なものではない。若し、たゞ娛樂のため、たゞ健康のためであるならば、娛樂、健康至上主義になつて、人間の性格を破壊して、國民の氣力、氣迫を鈍らせ、一方で得たものを一方で失ふことになる結果を招来するものである。故に、たとひ娛樂、健康のためであっても、人間としての大目標を見失はしめず、質實剛健の風を阻害しないことを條件としなければならぬ。

厚生運動の指導者は、この心構へを持つべきである。知らず識らずの間に、健全なる國民の養成たるべきことを見失つてはならぬ。

工場内に於ける産報はかういふ教育を事業場に徹底せしめて行くことでなければならぬ。しかし、明治大正以來、國體觀念や人間精神の問題は、現實生活の上や仕事の上には縁の遠いことのやうに考へられて來た長い習慣があつたから、事變以來急に唱へられるやうになつた國體觀念も精神的問題も、口でいふほどは眞に徹底はしてゐない。さやうな譯で、工場、事業場に於いての精神教育が指導者に缺ける點が少くないのである。従つて自己の職域と國家への御奉公との繋がりが切實に體驗されてはゐない。聲を大にして、産業は利益の爲めではない、收入の爲めに働くのではない、國に對する御奉公であるから、より以上の努力をせよと叫んでも、叫んだほどには能率があがらず、生産擴充に缺けた所があつたのも、その爲めである。最近、多くの工場等に於いては、周囲の要求につれて、技能者養成機關と、青年學校とかいふものが順次完備されつゝあり、相當の効果もあがりつゝあることは誰も信じてゐるところである。しかし、よくよく考へてみると、尙ほ未だ不十分な點が感じられないでもない。例へば、技能者養成所、青年學校に於ける教育と事業場との連絡が密接でない。今少し、雙方の連絡關係を緊密にして、胃と腸との有機的な關係のやうにする必要がある。中には又、從來からの傳統その儘で、功利的な目的を以て技術教育を施して、精神教育は忽かに流れてゐる向きもある。従つて、熱誠溢れるやうな氣魄を以て、國家觀、人生觀の問題を携げて生徒を教育する者が乏しいやうである。殊に大東亞の共榮圈確立のためには、日本人がその指導的立場に立たなければならぬ以上、一人々々

に大東亞諸民族の指導者たるべき自覺を與へ、高き風尚を養はしめなければ、聽ては彼等の日本人に對する信頼を失はしめることにもなるのである。このことは獨り外地に働く者に對してのみに要求される問題ではない。國內の各部署に就く人々の教養を、すべて一段と高く引上げて行くことについて、指導者は特に意を須められたのである。近來、動もすると、八紘一宇の精神とか、肇國の理想とかを、ただ筆舌の上だけで唱へて、實がこれに伴はない嫌ひがある。現に、事變以來、戰勝の後を追うて、渡支した邦人のだらしなさを見ても、支那人が眉を擡めることさへ少くなかつたといふことを聞くにつけても、國民の一般的教養が、行動を通して指導的立場に立つまでには到達してゐないといはなければならぬ。このことはまた、國內に於いても同様の嫌ひがある。故に指導者の地位に立てる者が實利主義の傾向に墮して、部下の人格陶冶にまで思ひを致さなかつたことは、顧みて己れを責めなければならぬことと思ふのである。

今後いよく、南方の經濟開發に關聯して、數多の事業が共榮圈各地に起るべき氣運に迫られてある時に際して、動もすれば起り易い射利、功利の精神に出發し、自由主義の理念に基く企業の進出は最も戒めなければならぬ。大東亞建設といふ高邁なる識見に基いて事業を経営し、部下を指導することが國策の大方針に副ふ所以である。かくして、八紘光被の興亞理念を實現することが出来る。さうでなければ、建設の企圖のみに躍起となつても、南方經濟開發は、内から崩れることにならぬとも限らないのである。この心構へは、特に指導的立場にある人の、片時も忘れてはならぬ重大事である。

子を傷ふ母

嚴父慈母といはれるが、父が子女に對して嚴格に過ぎ、母が慈愛に過ぎると、却つて子女の教育を誤ることがある。眞に國體に目覺めた親は、自分の子女ではあるが、陛下からお預りして居るものと思つて、子女の教養に努力する筈である。私の愛に溺れて、子女の心身を鍛鍊することを忘れ、軟弱に育てては、御國のために御奉公の出来ぬ者としてしまふであらう。

これは最近電車内の出来事である。乗客が例の通り込み合つて居るので、一人の紳士が整理の役を買つて出た。中老婦人が釣り皮にぶら下つて居る前に、平然と腰かけて居る中學生を見て、君、席を譲つてあげてはどうか、學校で婦人や老人に席を譲るやう教へられて居るだらうと注意した。ところがその前なる婦人が「又しても御説教か」とつぶやいた。紳士はげんな顔をしてどうしたんですかと咎めると、婦人はこの子は私の息子です。二人の兄は名譽の戦死を遂げました。今はこの子一人が私の頼りです。身體が弱いので腰かけさせてゐるのですから、構はんでおいて下さいといふ。紳士は思ひがけぬことで、あ、さうでしたか、失禮しました。お二人の御子息を無くされましてお寂しう御座いませう、誠に御同情にたへませぬ。が併し御子息は護國の神靈として靖國神社に御祀りを受けられ、畏くも御親拜をさへ賜はる、何たる光榮でありませう、お母さんも 皇恩の優渥に感激せねばなりません。この御子息を見るに別に御病氣でもなささうです。若い者の身體は鍛鍊に

母のかな文字



友が文師が御文もうれしけど
猶さらうれし母のかな文字

この歌は戦場の勇士が作つたものであるが、遠い異境にあつて、戦ふ人々の誰でも等しく感ずる氣持である。

母親の獻身的な精神感化が、偉大な力となり、勇士達の働きとなつてあらはれる。

女性の陰の力は強い。特に母親の慈愛は百萬勇士の力の泉となる。



よつて益々強壯になるものですよ。強く
お育てなさい。勞はり過ぎると却つて弱
くなります。と先づ親に説法をし、それ
から更に中學生に向つて、君はお母さん
を立たせて自分が腰かけてあるといふ法
はない。又他にも澤山立つて居られる老
人も婦人もあるではないか、君の行爲は
君の學校の名譽にも拘はります。立つ
てゐるのは鍛錬だ。お母さんの氣持ちは
解つてゐるが、君は親の慈愛に甘へては
ならぬ。少い時に、家で甘へた癖が大人
になつては大きな傷になるよ、よく反省
し給へ、二人の兄さんの跡をついで、君
もまた御國のために十分に御奉公の出來るやうに、平生心身の鍛錬をし
給へと懇々教訓をして、その子をして遂に席を母に譲らせた。

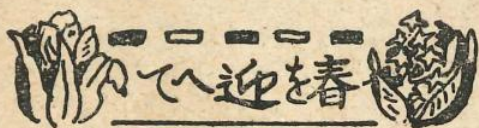
二人の戦死者を出した名譽の家に對しては、知るも知らぬも敬弔の誠
を捧げることを忘れぬ。さればとて末子の愛に溺れて、親切に自分のた
めに席を譲らせて呉れようといふ人に對しておかしな物の言ひ様をした
りするは、香ばしいことでは無い。二人の息子は御預かり申した子を御
返したしたのである。やがて第三の息子をも御用に立てようといふことを願す

マレー沖海戦で敵不沈艦プリン
ス・オブ・ウエルズを屠つた荒鷲の一
人が「私がプリンス・オブ・ウエルズ
に肉薄し、たゞ一心に爆撃の照準器
を睨んでゐた時に、不思議にもその
照準器の中に、故郷の鎮守の社で祈
つてゐる母の姿があらはれまして
ね」とあとで人に語つたといふこと
である。

かうしたことは戦地にある者のし
ばしば経験するところである。

又重傷を負つた若い荒鷲は、死の
床で機長に向つて最後の言葉を言つ
た。

「機長殿、最後の御願ひでございま
す。どうか自分の母に傳へて下さ
い。自分はまことに武運つたなく、
母に約束したやうな手柄も立てず
に、今ここで死んでしまふのは、何



るは大義に徹したものゝあるべき考へ方である。この婦人の心構への中
には公に奉ずる心構へにどこか足らぬところがあり、感傷的になり、世
間に反抗的になつてゐるところがありはしないか。子供をいたはり過ぎ
て、腫物に觸るやうにするは、薄志弱行の人を作る。如何な困苦にも缺
乏にも堪へ得る強い意志と實行力とは、平生家庭の躰から鍊成され
なければならぬ。その躰の指導は一にかゝつて母親にある。

うらかな光そそげば若草の野邊にひろがりさゆ
らぐいぶき

こほりつくさむさにたへし天地のいのちたたへて
花さきいでぬ

みんなみよく吹きくる風にこの春は春けき島のみ
いくさしのぶ

春なれや鍬をふるへば國おもふ心はげしく土にし
みゆく

春の水稲田うるほしながれつつ音きよらかに力あ
ふる

とも残念なことです。どうか機長
殿、自分に代つて母にあやまつて下
さい」と。

苦しい時、辛い時、緊張の極度に
ある時、常に思ひ出すは母のことだ
ある。

大君の御爲によるこんで、一身を
捧げる戦場の勇士の胸深くいつも埋
火のやうにひそんでゐる眞情は實に
母を思ふのまごころである。

戦地に征つて、一番になつかしい
のは、何といつても母の手紙であ
る。眞實丸出しの言葉で綴られた平
がなばかりの母の手紙は、どんなに
戦場の勇士を慰め、泣かせ、元氣づ
けたことであらう。

子供の中に生きる母、その子供を
通じて國家のために生きる母、日本
の母の姿ほど尊いものはない。



總力戰と降伏の問題座談會

甲 總力戰と降伏

の問題は教育に關係する事で重大なる問題です。戰勝と共に捕虜の數も多くなる一方ですが、「絶対に降参せぬ」と云ふ日本教育の方針から云へば

彼等の降伏は吾々には理解しかねることです。嘗て一外人と降伏論をしたことがあります。外人の云ふには、盡すだけの力を盡し、百計盡きた場合降参しても差支ない。その處置の當否は歸國の後、本國の軍法會議によつて、公正に裁斷される。再び起つて國の爲に盡す事が出来る。再犬死は國力の消耗となるといふので

す。その論は誠に理づめはよい。けれども力盡きたといふ見切りを早く着けるといふのが實情ではないでせうか。今回の英國捕虜の一員である司令官パーシヴァルは捕虜の身であり乍ら、妻子同伴を願ひ出たといふことです。日本人には理解出来ぬ笑止の沙汰です。彼等は當然と思つて居るらしい。翻つてフィリッピン在留の日本人が敵の爲に使役せられ、日本軍を防ぐ爲の塹壕を掘つたと云ふ報道があります。非戦闘員でしかも少數の日本人が兵器を手に持たないので、敵國人の爲に強制されて、シヤベル持つ手も重く止むを得ず敵の爲に塹壕を掘つたと云ひますが、現代の戰爭は、國の總力をあげての戰爭です。内地ではたとひ非戦闘員

でも一人残らず戦ひ抜かねばならぬ時であります。この際フィリッピンの日本人の行動は問題となるものではありますまいか。戊辰の役の折會津では、武士の女、子供は健氣にも最後まで戦ひました。しかし町人百姓は家財道具を手にして逃げ廻つてゐました。これを實見した板垣退助は國民皆兵でなければならぬと考へ、土佐藩の兵制を改革し農民を士族同様に兵士として教育することとしました。現下は國民皆兵の制であります。總力戰の時代ですから國民教育は軍隊に入つてからはじめて、「死ぬ」の教育をするのではなく、全國民が「死ぬ」の教育を受けねばなりません。フィリッピンの日本人が涙をのんで敵の命に従つたといふこ

とは已むを得ぬ事態と、云へませうか。日本の教育方針として理想とすべき所を論じたい。外地の少數の日本人の場合が殊に問題であります。

丙 合理的な考へ方よりも非合理的な考へ方があつてほしい。

丁 國民全部に軍隊教育を施すべきです。軍籍を持たせて海外に送るのがよい。平和の戦士たる外交官も武士道的に教育するがよいと思ひます。總力戰は日本人最後の一人までやると云ふ精神でなければならぬ。日本の經濟力についても、西洋的計算では何年で日本は亡ぶと云つたのが、實際は精神力によつてかへつて伸びてゆく、物質から精神へときりかへる事を考ふべきです。

丙 ヨーロッパでは科學的合理的

計算を最高におくが、それ以上如何に國力を伸張させるか。無限力を信ずるのが日本人です。

丁 進むを知つて退くを知らぬ、だが戰爭の場合はこの精神でゆかなければ統制がとれない。非合理的の精神ではじめて軍は出来る。平常考へない意外の事が出来る精神力がある。

「葉隠」の死物狂ひ云々といふ事は戦場の彈丸の下をくぐつた者の心の叫びで、普通の心理狀態では考へられない非合理的のもので、これが大きなものを生み出すのです。

乙 降伏の問題ですが、自分が降伏して再起して復、自分がやると云ふのは個人的の考へ方、日本人の場合、自分は死んでも後に續く者が

うけついでやつてくれると、縦のつながりを考へる。フランス人の如きは自分の時代を楽しく暮す事を目的とします。日本人は自分は苦しんでも次の時代の者を樂しませるといふ精神です。ダンケルクの敗將ゴートが本國へ逃げ歸つて非常に名譽ある勳章を貰つてゐる。楠公も生きて歸ればもつと陛下のお爲になつたと考へるのは英國式の考へ方です。ルーズヴェルトも其の教書の中に「名譽ある捕虜云々」と云つてゐます。何れも日本人の考へ方では理解出来ません。

丙 降伏の問題の反面勝つて驕らぬ精神——思想的に經濟的に、國體を顯揚する具體的方策をたてねばなりません。さうして陛下の御爲に死



して安心立命するところに導かねばなりません。總力戦である以上、軍民共に降伏は許されぬ。ダヴァオの日本人のとつた行動は遺憾なこと

批判せねばなりません。

總力戦と女子の教育

丁 現在の移民の教育も大切だが、更に將來海外へ進出すべき者の教育も考へねばならない。それについて女は日本の武士道に蔭の大きな力を持つてゐました。昔の武士の妻の犠牲的精神を、學校教育家庭教育にもより一層生かしてゆきたい。

甲 その問題は大切なことです。昔には細川忠興夫人のやうな美談が多かつたのです。この精神は古代ゲルマニア時代のドイツ婦人にもありました。最近ナチスドイツではこの古代ドイツ婦人の強い精神の復興が唱へられてゐます。

丁 神がかり的の強さ、これは古

代日本婦人の持つ強さでありました。理性を超越した強さを教育に強調すべきです。

乙 全く女は異常の場合に異常の強さをあらはしますからな。

丙 家庭教育に於ける母親の念の強さが大きな力を持つものです。日本の兵が神に對し信仰の厚いのは母親の教育によるのです。

日本人の信仰

丁 マレー總督夫人が教會で戰勝の祈りを捧げたと云ふ事ですが、その事は彼等の平生の物質的な考へ方とはどう關係づけられるのでせうか。

乙 西洋でも中世には神を信じたのです。近世となつて神信心が薄く

なつたが最後となると夫人も神に頼らなければ心細かつたのでせう。

丁 その宗教が個人的なものか、國家的なものかに問題があります。

乙 西洋のは個人的です。祈りは自分のためであつて、國と結びつきません。神と自分とが結びついて、國は考への中になくつてゐます。

丁 教團と國家との對立、魂の落ちつくところと、現實の人間の落ちつくところとは違つてゐます。

乙 外國では未だ曾て祖國のために七生報國を誓ひ、死してなほ護國の鬼とならうとした者を聞きます。戦争をする場合でも、自分が神に召される者として、テモテ後書の所謂「我が善き戦を戦ひ、走るべき道を果して、信仰を保つ」のであり

ます。祖國フランスのために蹶起したジャンヌ・ダークにしても、その魂の落ちつくところは天國で、シルレルはこれをうまく劇に仕組んで魂の昇天のさまを描いてゐます。

甲 日本では、魂の落ちつくところは自分本位に考へた極樂や天國ではなくて、國家と切つても切れないところに安心をつないでゐます。例へば「靖國神社で會はう」と云ふ信念は、これを端的にあらはしたものです。軍人ばかりでなくて、總力戦下の今日、日本人は誰でも陛下の御爲に死して安心立命するところが必要になりません。職分奉公と云つても、陛下の御爲に死ぬ覺悟が先づ出来てゐなければ日本人とは云へますまい。



軍神の勉強

「勉強のとてもよく出来る方法を知ってるかい」

「どんなやり方なんだ」

と中學生が集つて話してゐる。

「それはね、本の間にところ／＼に煎餅を挿んでおくのさ。煎餅のあるところまで読むとそれをばり／＼とかじる。そして又次の煎餅まで読む。早く食べたいから飽きないで勉強が進むんだよ。」

「なる程それは面白い。俺もやつて見よう。」

これを聞いてふと思ひ出したのは、明治維新の空氣を吸つて育つた老父がよく話した言葉である。

「わしの若い頃は、勉強をすると云へばよく鹽斷ちをしたものだ。五日でも七日でも鹽氣のものは一切食べないと誓ひを立てて讀書をする。居睡りをしさうになると錐を握つて膝にあてて本をにらむ。こつくりとやるとその

錐がぐさつと膝に立つて眼がさめると云ふやり方だつた。聖人の書を読むのだから、机に倚りかゝつたり、坐をくづしたりすることは許されない。倚りかゝることの出来ない見臺と云ふものに書物をのせて、端坐して讀むものだ。勉強の時に姿勢を崩しては尊い訓へも肚に納まらないものだ」と。

享樂的な態度と困苦を忍ぶ勉強と何れが人物を作りあげるか、云はずとも明らかであらう。物質的幸福を生活原理としてバターをなめ、ウキスキーを楽しんでゐた英米は多くの軍艦を擁し、強固な要塞を築きながら遂に没落して行くやうになつた。

享樂は國を亡ぼす基である。

ハワイ眞珠灣の華と散つた特別攻撃隊の軍神上田兵曹長が、死地に赴く最後まで勉強に努め、その遺品中に「文字くづし方辭典」と、字のくづし方を稽古中の紙片が残されてあつたと云ふ、尊い精神は、我日本青年學徒のすべてが、胸裡に刻んで、忘れてはならない嚴かな教訓である。



總選舉

この月の三十日には、總選舉が行はれる。大東亞戰爭の輝く戰果にこたへて、國內政治體制を名實ともに翼賛の體制として整へるための劃期的な選舉である。その意味で、今度の選舉は、今までの選舉とは、よほど違つた心構へで臨まなければならぬ。

といふのは、曾て政黨政治華やかであつた頃の選舉は、むしろ我黨のために、他の黨に勝つために、又權謀術數の駆引で權益を握るために、といふやうなことが主になつてゐたために、翼賛政治の正道からは、あらぬ方角に外れてゐた。一部には代議士といへば、まるで利權屋の代表のやうにさへ考へられてゐたほどである。そして議會といへば、黨派と黨派の泥試合を實演する舞臺だといふので、その實日比谷に議事堂があつた頃は、「日比谷劇場」の又の名さへ通用してゐた。

思へば、明治天皇の畏き愛民の大御心によつて實現された日本の議會政治は、その中途にして、有難き親心か

ら離れて、飛んでもない性格をつくり上げて來たのである。議會の革新、政治の倫理化、その新體制といふことが、幾度繰返されたことであらう。それでも、實現となると、こびりつき、しみついた垢は容易に落ちないやうに、おいそれと右から左にすら／＼と運ぶ譯には行かなかつた。舊弊の情勢はなかく／＼に抜き難く、革新の力としきりに轢り合つたのである。

しかし、大東亞戰爭は、百年一飛びの大飛躍を、政治、經濟、文化の各方面に齎した。一朝にして一世紀の歴史を創り出したのである。この歴史の躍進に足並を揃へて、更にこれからの歴史を生み出してゆくためには、國民の考へも亦百年一飛びの大發展を遂げなければならぬ譯である。

今度の選舉に臨む態度も、この譯合ひからして考へることが大切である。今までは、投票といふことも、個人的な權利だと考へてゐたから、棄權しようとしまいと勝手だといふ風にも考へられてゐたが、そも／＼この選舉權といふものは、我が國では、翼賛政治を實現するために、陛下から臣民に與へられたものである。個人の勝手にしてよいといふ西洋流の權利觀念で、日本臣民の選舉

権を考へることは、大それた間違ひである。
選ばれる議員は國民權益の代表ではなくて、大御心を奉行する臣民の代表でなければならぬ。この建前から、今回の選舉は、天業翼贊のための、清新明朗な臣民道の實踐としたものである。



思想戦

ラジオや新聞によつて、報道される華々しい戦果には、血湧き胸躍る感があるが、その戦果のあとで、我方未だ歸還せざるもの何機と、知らせられるその時は、新聞の活字がどんなに小さくとも、日本國民は決してそれを見通しはしない。むしろ戦果が大きければ大きい程、その歸還せざるものといふ文字に二人胸をさくられる。ハワイ海戦の時の「未だ歸還せざるもの特殊潛航艇五隻……」と報ぜられたあの時の何ともいへない悲壯な嚴肅な氣持は、今なほ生々しい記憶として忘れられない。これが全機無事歸還とか、我方損害なしとかと報ぜられた時には思はず心が明るくなる。

しかし日本軍人は生還を思はず、それこそ 天皇陛下の御爲に、身も心も捧げつくした純一無雜な神の心になり切ることが出来る。それだからこそ強いのだ。ハワイ海戦の時の特別攻撃隊の勇士達は遺言さへもあまりしなかつたさうである。すつかり捧げ切つた純忠には遺言さへも必要としないのだ。後顧の憂なしといふが、安心して切つて、國家に後事を委せ切れる有難い國柄。その有難い國に生れたよろこびもさることながら、遺言一つせず、さら／＼とした氣持で勇躍壯途に上る勇士の心境は尊い。ハワイ海戦の特別攻撃隊の勇士達が出陣に當つて上官に申告するのにも「只今より征きます」と言つたのみで「征つて参ります」とは言はなかつたといふ。一寸した言葉にも、勇士達の再び生きて歸らうと思はない決意の深さがうかがはれる。これは單に武力戦の上のことばかりではない。日本人は今、武力戦によつて米英を徹底的にやつつけてゐるが、そのことは、とりもなほさず、七十有餘年打續いた心中の賊たる功利打算の利己的、唯物的思想を徹底的に撃滅する思想戦に勝ち抜きたいためだ。日本人は現在、日本固有の純忠の捧げ心になり切るために、心の米英と戦つてゐるのだ。

慰問袋

戦地へ送る慰問袋や手紙なども戦争の初めの内は盛んに送られたものだが、この頃は次第に少なくなつてきたやうに思はれる。とり分け父や夫や兄弟などの身内、或は親類の者や出征して居る内はともかく、それ等の人々が歸還してしまふと、トンと忘れたやうに、戦地への慰問袋など送らなくなつてしまふのはあるまいか。それではいけないと思ふ。それ慰問袋がどんなにか異境遠く戦つてゐる勇士達を元氣づけ、よろこばせることか。慰問袋を通じて温かい眞心をかよはし合ひ、共に共

に勵まし合つて、皇國の大理想を實現するために限らずに努力し合ひたい。それにつけても、戦地で闘つて居る人々には、どういふものを慰問袋として送つたらいふか。物資不足の折柄でもある。いろいろと苦心することであらう。

慰問袋といふと、すぐ何か食べ物と考へるが、これは慰問袋がはじめに送られた日露戦争當時の戦地にこの頃は、戦地に於ける食料は軍の方で十分努力して居られるから、羊羹や甘いお菓子など無理に苦勞して送ることはないと思ふ。

胡麻鹽、海苔、胡椒、七色唐辛子、山椒の佃煮のやうなもの、食事の時に、一寸用ひるのに役立つのでものだけれど途中では瓶詰のものが、若し送るとしたら、青竹の筒か、ブリキの

罐にでも入れたらよい。煙草も現在の包装では濕氣でしまふから、これもブリキの罐がよい。さうして、荷造りには特に細心の注意を拂ふことである。

それでは何が慰問袋としてよいかと云へばまづ本や雑誌類——これは新しくとも古くとも、面白いものであればよいと思ふ。これなら食料と異つて、この頃でも割合らくに手に入るものではあるし、その外、手藝品や小さい手製の可愛い人形、家で乾したかき餅、庭に咲いた花の押し花なども貰つてうれしい。それによつて送る人々の眞心をジカに感ずるからである。

忘れてはならないのは必ず慰問文を添へることである。この慰問文も抽象的な論文みたいな勇ましいお飾り式文句ではなく、眞情の家族の話、親類の話がよい。

會社の話、通勤の道の出来事から家庭園藝の話、お百姓さんなら作物の話等の消息を出来るだけ細かく具體的にのべ、思はず微笑むやうな諧謔味が漂うてゐればよい。何が無い、彼が不足だと言ふことを、あまり悲觀めいた調子でてんめんと綴るのはよくない。あくまで明るく朗らかな氣分がにじみ出てゐるやうなものでありたい。

次に慰問袋の袋であるが、手拭を二つ折にしたあの形で、手拭がなかつたら、何でも有り合せの布で結構だが、その際白い布を大きく縫ひつけて、慰問袋といふ文字と、住所氏名がはつきりとわかるやうに書くことである。

とも角、手近にある品々をいつも心にとめて集めておいて、絶えず送るやうにしたい。要は品物の數や種類よりも「まごころ」を送ることだ。



長 壽

九十九歳
まで生きた
祖母につい
て孫達がお
通夜の晩に

いろく〜と語り合つた。

「お祖母さんはさういへばとても氣が長かつたね。絲屑のもつれたものなども面倒臭さがらずに、根氣よくはぐして、つないで毬にしてくれたたり、もう使へないやうな小布をいつのまにか色どり面白くはぎ合はせては、孫や曾孫の着物にこしらへたり座蒲團にしたりしてくれたものだ。お祖母さんはいつも言つてゐた―若い者は元氣にまかせて無理をしたり、徒らに功を急いであせつたりするが、そんなことでは本當のよい仕事は出来ない、桃栗三年柿八年といつてね、靜かに待つことを知らなく

てはいけないよ。その間にじつくりと準備をするのだ、とよくさとされたものだ。氣を長く持つこと、こせく〜しないで、悠然と生きること、これが長生のもとなだね。」

「さうかも知れない。だがお祖母さんは自分が氣が長かつたばかりぢやあないよ、物の生命を實に大切にしたいね、足袋でも着物でも紙でも本當に大事にしていていねいに取扱ひ、長くもたせたね、殺生といふのは生ものの生命をとることばかりではないぞよ、物の生命を粗末にすることもいふのぢやよ、まだ使へる物を捨てたり、ていねいに使へば長く生命を保つことが出来る物を亂暴に使つてその生命を縮めたりすると、その報ひで自分の生命も縮められて若死をするぞよとね、本當にいふことをいふねえ」

「だからさ、食べすぎて食物をムダにするやうなことはしなかつたね、お祖母さんはいつも少食で腹八分だつたやうだ」

「全く、お祖母さんは非常時向きに生まれてゐたんだね、大東亞戦争の長期戦の氣持も分つてゐたし、物資節約の趣旨にも自然叶ふわけだ、その意味では年とはとつてゐても新人だつた。長生きする筈だよ、だがもつと生きて頂きたかつた。」

「本當にいふおばあさんだつた。」

「ねえ、お祖母さん、孫達は皆かうして兩手をつなぎ合つて、心を合せて、志を大きく持てとおつしやられたお祖母さんのお言葉を守つて、皇國の爲に御奉公いたしますよ」

と孫達は一人々々改めてお線香を上げ、お祖母さんの柩の前で誓つたのである。



猫と卵

英國から
歸つて來た
人の話によ
ると、西洋
の家庭で

は、子供が鶏を飼つて卵を産むと、それを親に賣りつけるといふ。親も亦喜んでその卵を買取り、多少でも市價より安いと得意になつて隣り近所にそれを吹聴するさうである。又支那では、子供が猫の子を欲しがつても、子供自身で猫に食はせるだけの働きが無ければ、猫の子を家に入れることは許されないといふ話を聞いたことがある。

鶏を買ふ金は誰が出すにしても、又飼料の代は誰の財布から出るにしても、そして又實際に餌を與へ水をやるのは誰の仕事であるにしても、産んだ卵は家中の者がその恩恵に浴

するのが日本の家庭である。其處では區々たる個人の所有權や勤勞の報酬は主張されない。子供が鶏の世話をして得た卵を親が買ふといふことも絶對に無いことはないが、それは子供に勤勞を奨励するといふ教育的な目的から假に賣買するのであつて、その代金は子供の勝手な處分を許さず、大抵は子供の貯金として將來に残されるに決つてゐる。猫の子にしても亦同じである。欲しがつて貰つて來るのは子供であるが、呉れてよこした家に鯉節のお返しをしたり、これを養つたりするのは勿論親達である。而も猫は家族の一員にな

つて、別に誰のものといふことは無い。子供はたゞその猫を可愛がりさへすればよいのである。子供も親もそれで別に不思議とも何とも思はぬし、義務や權利の争ひなどは樂にたくも起らない。

西洋の家族心理が我々には解し難いやうに、西洋人には我々の家庭のこの空氣は容易に呑込めないであらう。支那人の場合とても略々同様である。然しこれが我國の家庭の妙味である。西洋功利の考は我國の到處を風靡してしまつたが、せめて家庭だけはこの狂瀾から護りたいものである。



◆附屬富士見幼稚園の園兒募集

大倉所長を園長として創立以來十八年の歴史を持つ富士見幼稚園では、今年から更に保育の内容を充實して、園兒を募集してゐます。御希望の方は左記に規則書を御請求下さい。

東京市目黒區中目黒三丁目九九〇

富士見幼稚園



國民 行事 大詔奉戴日

昭和十六年

十二月八日、

畏くも大詔が

渙發せられ、

對米英にして

戰を宣せられ

ましたことは、私共の誠に感激に堪へない所であります。この日を永く記念し、この感激を常に呼び起すために定められたのが、この大詔奉戴日であります。

この趣旨に基づいて、大政翼賛會が政府と密接な聯絡の下に定めた實施項目の要點は次の通りであります

- 一、詔書捧讀 官公衙、學校、會社、工場等に於ては詔書捧讀式

を行ふこと

二、必勝祈願

神社、寺院、

教會に於ては必勝祈願の行事を行ふこと

行ふこと

三、國旗掲揚 各戸に於ては國旗を掲揚すること

を掲揚すること

四、職域奉公 各自職域の奉公に勵精し殊更に當日を休業とする

如き採らざること

五、その他の國民運動 大政翼賛會に於て隨時決定すること

以上の中、詔書捧讀式並に詔書捧讀に關する注意の二三を述べませう。

詔書捧讀式は次の順序に従ふのが適當と考へます。

- 一、宮城遙拜
- 一、國歌齊唱

一、詔書捧讀

一、祈願並に祈念

一、講話

凡そ諸儀式に詔書、勅語を捧讀し奉る時には、捧讀者も拜聴者も常に敬虔な態度を以て臨むべきはいふまでもありません。

詔書(勅語)捧讀者が登壇した場合には、座席にある參列者は一同起立し、直立不動の姿勢をとります。詔書の捧持者が參列者の前方又は列の間を通る時には、その前又は側に居る者は頭を下げて敬意を表します。

捧讀者が、捧讀し始めようとする際には、拜聴者は最敬禮を爲し、次に頭を前に垂れて拜聴し、捧讀が終つた時には、更に最敬禮を爲し、捧讀者が復席してから、一同徐ろに着席します。



連續 講座 國體と隣組 (完)

隣組の起源

いまでも、「隣組」は、やれ支那の唐代における「五保」の輸入であるとか、やれナチス・ドイツの近隣ブロックの眞似であるとか、などと考へるむきもある。

しかしそれは全くの間違ひである。といふのは、わが國における隣保の淵源は、悠遠の上古にもあることが出来るからである。すなはち、わが上古には「ゆひ」(結・由比)と呼ばれる隣保があつた。今日もなほ、一部の地方には、この遺風がつたはつてゐて、「ゆひ」「えい」「あひ」などといはれてゐるが、今日のそれらの目的は、おほむね、農業についての

勞力の融通にかざられてゐるにすぎない。だが上古の「ゆひ」の目的は、農業・手工業・水産業・家屋建築などといふ經濟生活の共助はもちろんで、同一氏神の祭祀を中心とする精神生活の協力體であつた。いひかへれば、上古の「ゆひ」は、あらゆる物心兩面の日常生活にわたつて協力する立派な隣保であつた。

われらの遠い時代における御祖先は、一視同仁に思召される神々の御慈光の下に、かうした實行組織を通じて、お互に助けあひ勵ましあつて共榮生活をつづられたのである。だから、大化改新に際して、支那の唐代における「五保」が輸入されたには相違ないが、それはあくまでも、形式上の攝取にとどまるものであつて、その本體までも眞似たのではない。いふまでもなく、支那にも古くからいろいろの隣保があつたが、それらは親類縁者だけで結成するものがたてまへであるから、わが國の隣保において、遠くの親類よりも近くの他人(組合)とか、「組合は五本の指」などといふ諺があるやうな、他人をも混合し、しかも構成員相互が兄弟同胞と同一視せられ

る構成とは、大きな違ひがある。のみならず、よしその隣保自體の結合がうまく出来ても、他の隣保との折合ひが悪いので、聯合組織の運営がうまくゆかなかつたし、またこれを悪用して自分の私腹をこやさうとする役人も多かつたのであるから、いはんやわが國の隣保のやうに、肇國の精神にもとづき、またこの精神を日々の實生活に具現するための國民組織となるなどといふことは、到底出来ぬことであつた。元來隣保は、わが國の本土はいふまでもなく、朝鮮・沖繩・臺灣にも行はれ、またビルマ・パプア島にも古くから實施せられた東洋の美俗であつた。しかし個人・自由主義思想にとらはれてゐる歐米人には、なかくこの隣保の眞意義がわからなかつたとみえて、ひとりよがりなひどい侮蔑の評論をこころみたものである。いまから約三百年前にわが國に渡來したフランス人レオン・パジスが「個人の自由を拘束するものだ」と罵り、アメリカ合衆國においてここ二十年來、好著として名聲を博してゐるタフ・デューウィー共著の「倫理學」のなかに、わが國にお

ける五人組を「未開蠻族の風習である」と論じてゐるのは、その一例である。なかに、明治の初期、わが政府の法律顧問にまねかれたアルバート・モッセのごときは、明治十九年十二月二十二日、そのころ成案をいそぎつあつた自治制度の草案作成委員會の席上で、新自治制度に隣保をおくことは、「およそ人は自由に住居するを得るといふ原則に背くものである」と、大いに反對して、せつかくの美風を破壊することにとめたこともある。現行市町村法規に、隣保法のないのは、彼の力によるところが大きい。

しかしながら、ながくわが國に居住し、正しい眼でわが隣保を研究した外人には、だんくそれが、西洋にはみられない良俗であることに氣づかざるを得なくなつて來た。明治の初期、横濱の十全病院長をつとめるかたはら、永らく五人組の遺風を詳しく調査したシモンズは、「この組織ならば、西洋で見られるやうな階級や貧富の對立鬭争を、絶無にする社會が出来あがる。そしてこれは私が知つてゐるい

いふことが出来る。

このやうに、今日の「隣組」は、支那の隣保やドイツの近隣ブロックの輸入でもないし、またつい二三年前や江戸時代にはじまつたものでもない。われらの歴代の御祖先は、この近隣人からなる親和融合の大家庭のなかに、産聲をあげ、何ごとについても互助共勵の傳統精神を發現しつつ、自他共榮の生涯をおくられたのである。國史上、ただこの隣保がかへりみられなかつた期間は、歐米の文物制度が、いたづらに謳歌された最近七十年間だけなのである。

われらは、この固有の美俗たる隣保、世界に冠絶する全國民共榮のために設けられた隣保、肇國精神をわれらの日々の實生活に躬行するための國民組織としての隣保を、お互に強く正しく美しく運営し達せしめることにとめようではないか。お互の血液の源をたづぬれば、つまるところ、同一の御祖先に、もとめられるといふ近隣の人たちとさへも、同胞共助の精神を十全に發揮することが出来ないで、何んで、廣大な八紘一宇の大理想を實現することが出来るようか。

づれの國の歴史にも、比較するものがみつからないほど驚歎すべき美俗である」と讀へてゐる。またわが國に前半生をすごしたドイツの法律家ルドルフ・シュフナーは、いまのところ、外人中、わが隣保について最も深く研究してゐる人であるが、彼も「日本國民は、隣保の教化によつて明徹した奉公精神をもつてゐるので、諸外國の國民がもつてゐるやうな個人主義的觀念は皆無である。日本はこの世界的美俗を基礎として今日の隆盛をみるにいたつた。日本は隣保とドイツの近隣ブロックとは、近隣家族の結合であるといふ點も共通であるし、またそれらが、日獨おのくの理想を實現する推進力となつてゐる點も似てゐる」と稱へてゐる。

思ふにナチス・ドイツの近隣ブロックは、第一次世界大戰ののち、その生死をかけての國家再建に際して、その適切な基礎組織として創設したのであるが、これに對して、わが國の隣保は、正しく悠久の上古に源を發する固有の良風である。だから、わが國の隣保はドイツの近隣ブロックの母親である。とも

大倉山

◆大倉山の記念式典
四月九日は大倉山の創立記念日に當るが、研究所神殿において厳かな祭典を奉仕して、天照大神のみたまのふゆを仰ぎ、一層の精進を以て使命達成に邁進せんことを祈念し奉る。

大倉所長の動靜

政治、文化の諸團體に對する大倉所長の關係は多方面に亘つてあるが、三月初旬新に水野鍊太郎氏を會長とし諸方面の權威を以て結成されてある南方對策協議會の委員、及び東京府翼賛壯年團の結成準備委員會の依頼を受けられた。尙ほ東京府知事の依頼により選舉問題に關する懇談會其他陸海軍の將官を中心とする瑞穂俱樂部の會合、産報の理事會等が引續いて催されたのに出席された。その間、日本法理研究會に於て「日本産業道と統制經濟」に就いて講演。研究所關係では理事會を主宰され、附屬幼稚園にも出かけられて、園児や母親に講話をされた。一方、東洋大學は學期末で諸種の學校行事が重なつて、目の廻るやうな忙し活動が続けられた。

大日本精神史研究會

所員各方面に出張しての史料の蒐集、新見編輯長を中心としての毎週一回の研究協議會も引續き進捗してある。尙ほ前記の如く四月九日には所長大倉先生の還曆をお祝ひして、「記念論文集」を謹呈する。

最近の大倉山修養會
三月十八日・廿日産業組合中央會職員、四月十八日・十九日東京市國民學校訓導
◆三月廿五日、附屬富士見幼稚園第十七回卒業式を舉行、園児九十五名が集立つた。
神武天皇祭・神武天皇の八紘爲宇の創業の御苦勞が今や大東亞戰爭となつて、次々に擴大され實現されてゆくことは、神國日本に生をうけ、この聖代にあへる一億國民の感激である。天皇節・赫々たる戰果、偏に御役威のからしめるところ、謹んで聖壽の萬歳を壽ぎ奉る。
靖國神社祭・それにつけても護國の英靈に對し、限りなき感謝のまことをいたしたい。花は咲けども花をみて浮かれ心なる日本人はあるまい。▲ラングレンが陥ち、蘭印の命數極つた今となつては、敵の頼みとしたABCD線も根こそぎ崩壊したわけだ。開戦以來百日にも足らぬ呆氣なことである。▲チャーチルがしきりに日本軍の強いことをほめてゐる。敵をほめるとは床しい心掛だと言つてやうなところだが實は日本軍の強いことをほめてゐる。英軍が弱すぎることになる。「敵は本能寺にあり」といふところか。▲この強い日本軍に捕虜になつた敵軍は二十三萬といふ驚くべき數に上つてゐる。敵に降伏するが彼等には案外苦にならぬとみえる。一通りの責任さへ果せばあとはお構ひなしといふ料簡か、日本精神とは大いに異なるところだ。これらの問題を含めて特に本號では「總力戦と降伏問題」についての大倉山の座談會の記録の一部を掲載することにした。▲大東亞戰爭も第一段階が終つたが、これからが眞の意味に於ける建設戰で、一苦勞も二苦勞もしなければならぬところである。特に産業方面に力を

編輯後記

つくさねばならぬ ▲産業指導者教育の熱心なる提唱者であり、實際にその訓練にたづさはつて居られる大倉先生の「大東亞建設と産業指導者」なる一文を巻頭にかゝげた。御味讀を乞ふ。▲連戦連敗ではあるが、米國は生産力にかけては最も自信のあるところ。日本の實力を分りすぎる程、分らせられた今日、軍需生産にいよいよ本腰を入れたことは明かだ。▲乃ち米政府は本年は飛行機六萬臺、戦車四萬五千臺を建造するぞと意氣まいてゐる。そのためには、一切の軍需工場に一日二十四時間運轉の命令を發してゐるし、この際意業などする者は死刑を科する法律も發布した。▲それと一方、どんぐり増税をしてゐる。本年度は戦費を國民所得の五割、六百億ドル徴収する。その結果、租税は三割から三割五分の増税になるといふ。▲だが日本國民は生産力に於ても米國に勝ち抜くために一層その緊張度を加へなければならぬ。

昭和十七年三月二十五日印刷
昭和十七年四月一日發行

定價送料共一部金五錢

一ヶ年分金六十錢

編輯兼發行人 横濱市港北區太尾町大倉山 田勝二

印刷者 東京市蒲田區仲六郷一ノ五 三省堂蒲田工場

代表者 今井直一 横濱市港北區太尾町大倉山

發行所 電話横濱綱島五〇番 振替口座横濱四六〇一 日本出版文化協會會員 登錄番號第二〇七〇一六番

三箇の信條

- 一、皇國精神を深める事
- 二、世の爲め家の爲めに盡す事
- 三、眞心を以て物事を判斷する事

五箇の實踐

- 一、朝早く起きて神佛を拜む事
- 二、物を大切にし食物は頂いて食べる事
- 三、勤勞を喜び人の嫌ふ仕事は先に立つて行ふ事
- 四、禮節と規律とを守る事
- 五、自分の事は自分でする事

常思猛進偈

一ツニハ今日の一日も、死際の一日も變りなし。短かき生命を意義深く、力強く、生きん爲めには、明日の日を待たず、今日より取りからん。

二ツニハ現實刻々の生活の場所が、その儘信仰の道場なり。かくてこそ、信仰は力となり、喜悅となり、命となる事を信ず。

三ツニハ日々三省して心鏡を磨き、宇宙正法の如實に顯現せんことを祈り、正しき人生觀を確立して眞と善と美とを踏占めつゝ、信ずる所に邁進せん。

四ツニハ我民族は天孫を中心として、史的發展をなし、國家生活に於て、天才の國民たりしを自覺自重し、赤誠報國の大乗國民たらん

事を念願す。

五ツニハ禮節を知るものは衣食足るに至る事を信ず。

食前感謝

一、此食物が食膳に運ばれる迄には、幾多の人々の勞力と神佛の加護によることを思つて感謝致します。

二、私共の徳行の足らざるに、此食物を頂くことを過分に思ひます。

三、此食物に向つて、貪る心、厭ふ心を起しません。

四、此食物は私共の心身を癒す良薬と心得ていただきます。

五、此食物は皇運扶翼の道を行ぜんがためにいたゞく事を誓ひます。

大倉精神文化研究所刊行書目

大 倉 邦 彦 著		神		神			
處世信念	勤勞教育の理論と方法 — 宗教的行としての集團勤行 —	日本産業道	隨飛想 び 石	(内容見本進呈 要三錢切手) 典	神 典 索 引		
四六判 定價 一九〇頁 送料 一八〇	四六判 定價 二二八頁 送料 一三〇	四六判 定價 二〇〇 送料 一四	四六判 定價 一・六〇 送料 一・一〇			三五判革裝 二一六〇頁 定價四・五〇 書留送料 ・二一	菊判三九六頁 定價二・七〇 送料 一四
神典序説						大 祓 講 義	
神典解説 上巻 下巻 (増刷出來)							
上巻菊版 五三二頁 下巻同 四九五頁 定價(各) 三・五〇 送料(各) 二・二〇							
菊判二四四頁 定價 一・二〇 送料 一四							
清く明るく直く正しき大和心は、みそぎはらひの神事によつて躍動し顯現する。大祓の行事は、わが民族固有の深遠な哲學であり宗教である。その意義をわれゝの生活の中に活現することは、日本精神昂揚の第一義でなければならぬ。本書は本研究所主催の神典講座に於て、神宮奉齋會長今泉定助翁がその體驗と久しきに亙る研究に基いて講義されたものの筆録である。							
A5判クロス装幀 一五六頁 定價 一圓五〇錢 送料十四錢 増刷出來							

昭和九年五月十一日 第三種郵便物認可
昭和十七年三月二十五日印刷納本 昭和十七年四月一日發行

(毎月一回一日發行)

躬

行

第九十九號

(停)

定價(送料共)金五錢